

風と樹の詩

う た

～いまをみつめて～

社会福祉法人砂町友愛園
砂町友愛園養護部 施設長 河上準一
〒198-0172 東京都青梅市沢井 1-506
☎0428-78-8388 fax0428-78-9104
<http://www.sunamachi-yuaien.or.jp/>
2019 年 秋号

共に感じる機会を

皆様、こんにちは。家庭復帰を担当しています肥塚です。そろそろ今年も流行語大賞が気になる季節となりました。去年の流行語大賞は『そだねー』でしたが、とてもいい言葉だったと思います。この言葉に因んで、子ども達との日常会話の中で最近気になったことをお話しします。

子ども達との会話において、私が提供した話を子ども達が「そだね。」と共感的な言葉で返してくれる場面が少なくなりました。必ず共感してもらえと思った話題を提供しても共感を得ることができずにいると少し落胆してしまいます。もちろん人それぞれの違った意見があってもいいと思います。その上で相手の考えに一度は立ち止まって、「なるほどね。」等の言葉がほしいものです。そして「けど僕はこう思うよ。」と対話が続けばいいと思います。

共感することでコミュニケーションが成立するとは思いますが、今の子ども達にとって共感あまり意味のないものとなっているようです。それとも自分の意見や考えをまず聞いてほしいという気持ちの表れでしょうか。心理的には子ども達の“共感”をどのように捉えればよいのでしょうか。

さて先程の流行語大賞のお話ですが、私は『ONE TEAM』推しです。砂町友愛園養護部としても、『ONE TEAM』で子ども達の支援に励みたいと思います。

副施設長・家庭支援専門相談員 肥塚 亜樹



こんにちは。心理療法担当職員の上松です。“共感”について心理的にはどう捉えるのかとありましたので、簡単ではありますがお話をさせていただきます。心理学、特にカウンセリング等では共感というものを非常に大事にしています。ここで言う共感とは《相手の体験や感情をあたかも自分自身のものであるかのように感じ取ること》とされており、一般的な共感よりも非常に深い共感になります。ここまでの共感というのは心理士でも中々容易にできることではありません。一般的な共感にも単純な好き嫌い、相手との違いを受け入れた上での同意、感情移入のような深い共感と様々な段階がありますが、子どもの発達やコミュニケーション能力の成長には、いわゆる共感能力の成長が非常に大事になります。そのため、ぜひ子ども達には共に感じる機会を増やし、そこで生まれる人との関わりを大切にしていって欲しいなと思います。

心理療法担当職員 上松 侑平



――行事報告――

令和に入ってしばらくたちますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。砂町友愛園の子どもたちは皆元気に過ごしています。また、今年も様々な行事を開催する事ができました。一部になりますが、皆様に行事の様子をお届けします。

杉の子祭

保護者、学校の先生や友人、児童相談所、地域、その他関係者の方々に多数、来場して頂きありがとうございました。今年は、数年前より計画をしていたイベントの内、中央大学の太鼓サークルの方々の協力を得て実現することが出来ました。また、例年お手伝いして頂いているボランティアの方や今年初めてお手伝い頂いた食育実践会（近隣児童養護施設の栄養士さんたちによる会）の皆様協力もあり、令和最初の杉の子祭は大盛況のうちに終えることが出来ました。

牧野職員



一番楽しかったのはストラックアウトです。たくさん点数をとれて、商品をゲットできました。職員からすごいと言われてとても嬉しかったです。チョコバナナが好きなのでたくさん食べられました。イベントでは太鼓叩きの体験をさせてもらいました。初めて太鼓を叩くと意外と難しかったけど、良い音がだせました。小6 男児 Y

キャンプ

夏の思い出作りの一つとして、一泊二日のキャンプを実施しました。砂町友愛園のキャンプは毎年希望者を募り、参加をする子ども達が主体となり、計画を立てる経験をするという事を大切にしています。当日はNPO 法人奥多摩カヌーセンター様のご協力もあり、奥多摩にある白丸ダムでカヤックの貴重な体験をさせて頂きました。また、飯能市にあるキャンプ場では皆で協力してテントを張ったり、カレー作りやバーベキュー、夜は焚火を囲んで皆で話をしたりと、子どもも大人も日常生活では出来ない様々な経験をする事ができました。

潮来職員



東京ディズニーシー

10月6日にお楽しみ行事としてディズニーシーに行ってきました。お楽しみ行事は子どものアンケートを参考に行先を決める、年に1度の行事です。殆ど毎年ディズニーになるくらい子どもたちにとっては楽しみの大きい場所です。今年はお部屋ごとでまわったので、何日も前から乗りたい物、食べたい物、誰にお土産を買っていくか等悩んで話し合う微笑ましい姿が見られました。当日は雨が降ったりやんだりの残念なお天気でしたが、そんな事も気にせず元気に限られた時間の中で沢山遊ぶことができました。

日野澤職員



お～ちゃんフェスタ



お～ちゃんフェスタでは、軽食の販売や露店を通して地域や福祉施設の方々と交流を行うことが出来ました。大沼職員

赤い羽根共同募金



共同募金は台風の影響で一度、延期しましたが、11月に無事に行うことが出来ました。子ども達も大きな声を出して頑張ってくれました。大沼職員

臨海



「まだかなあ～」「どこお～？」と幼児さん達はバスの中から海を探してましたが、海を見つけた瞬間に「あったあ～」「みてみて！」とニコニコ笑顔で話してくれました。海では普段図鑑でしか見た事のない生き物や魚を捕まえたり、中高生はボートに乗って沖の方まで出て楽しんだりしている姿が印象的でした。帰る頃には皆真っ黒に日焼けし、ひと回り、ふた回りとたくましく感じる事が出来ました。毎年、お世話になっているホテルの方々をはじめ、様々な方の協力なしでは成り立たない行事であります。今後ともよろしくお願いいたします。

宇野職員

――ご招待いただきました――

横田基地交流BBQ

毎年、夏前になると横田基地の通信部隊の方々に基地内に招待して頂いています。今年度は7月に基地の原っぱで水風船や水鉄砲を使ってびしょ濡れになって遊んだり、ピザやお菓子を食べながらフェイスペイントをしてもらったりと、子どもも大人も存分に楽しみました！普段聞きなれない言語や違う文化に直接触れ合える貴重な機会です。今後もこの交流を大切にしていきたいと思います。

稲田職員



NPOみらいの森のサマーキャンプ



みらいの森のサマーキャンプで山に行きました。一番面白かったのは沢登りです。沢登りでは川の4メートルくらいある所から飛び込みをします。最初はとても怖かったけど、やってみたらできました！できて「あ～全然怖くないんだ！」って思いました。こういう風にいろいろな事にもチャレンジしてみようと思いました。

珍しいチョウを捕まえようとして、いっぱい苦労してチョウかと思ってつかまえたらがだったのが思い出に残りました。とっても楽しい5日間でした！

小3 男児 Y

砂町友愛園の取り組み

---子どものインターネット導入---

インターネットの利用が当たり前になっている世の中において、児童養護施設入所中の児童が施設内でインターネットを利用できる環境の整備は遅れている実状があります。児童養護施設全体でも半分以上の施設が児童用のインターネット環境の整備ができていないそうです。

IT 係は児童のインターネット利用に向けた環境整備と安全な利用推進に向けて設立されました。現在はインターネットに接続できる児童用のパソコン導入を目指し、試験的に機器を導入しながら利用の状況を精査しているところです。

インターネットは情報を集めたり発信したりする上で便利なツールであることは間違いありませんが、利用の仕方によって危険な側面やトラブルに繋がる可能性も持ち合わせています。児童が安全にインターネットを利用する為に、支援する職員の側もインターネットに対する知識を深めていけるよう係としても情報提供に取り組んでいきます。

IT 係 大田職員

--- NPO 法人ブリッジフォースマイルのセミナー ---

私は NPO 法人ブリッジフォースマイルのセミナーを通してチームワークの大切さを学びました。セミナーではスタッフさんと卒園生が来てくれて、実際に自立をした際に役立つ実体験を講義してくれました。その中でも自立をした際には“頼れる大人を作る”ということが大事であり、私でいえば園の職員です。自立に向けての不安や心配事も職員が今まで聞いていてくれるので、きっと自立した後も一番理解をしてくれると思います。あと、お金のやりくりの大切さを教えてもらいました。自炊できる時は自炊をしていかないと、金銭的に厳しい為、外食ばかりしないようにします。グループホームでは休みの日に職員と一緒に料理をしたりしているので、自立しても続けていきたいです。

高3 女兒 C

--- 実習生の受け入れ ---

今年度、砂町友愛園に入職しました廣瀬と申します。私は大学3年生の時に、砂町友愛園のグループホーム司で16日間の社会福祉士実習を行わせていただきました。実習を行うのは初めてで緊張していましたが、職員方が、私の子どもへの関わりを温かい目で見守ってくださり、自分らしさを出して実習ができました。

毎日の反省会では、子ども対応のアドバイスだけでなく、児童養護施設の実態を分かりやすく説明してくださり、教科書には書いていない事を学ぶことができ、実りある実習となりました。実習中に感じた職員同士の和やかな雰囲気や、子どもたちの話を傾聴し丁寧に対応している姿を見て、この施設で働きたいと思うようになりました。

現在私は本園で働いており、実習生に教える立場となりました。しかし私自身もまだまだ子ども対応が不十分な面があるため、指導するというよりは、緊張している実習生に積極的に話しかけたり、困っていることや悩みを聞いたり共感したりして、自分らしく楽しい実習ができたと思ってもらえるように声かけをしています。

新任職員 廣瀬職員

○フレンドホーム

家庭で生活することができない子どもを、夏休み、冬休み、土曜日、日曜日、祝日など、学校がお休みの期間に、ご都合の良い数日間お預かりいただける方を募集しています。おおむね3歳から12歳の入所児が対象です。

○ボランティア

子どもに勉強を教えてください方、一緒に遊んでくださる方、行事のお手伝いを教えてください方を募集しています。